
未来 > 今 > 過去

紺那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

未来>今>過去

【Nコード】

N6656E

【作者名】

紺那

【あらすじ】

先生が大好きな生徒とその先生の小説です。

1日目『突然告白』

「不等号とは、例えば1と2だったら、
1<2になる。」

ため息まじりの声で話す。

「わかります？1年生。」

1人居残りの少女に向かってそう言った。

「わかりまへーん。」

悪ふざけの様に私は返事した。

「不等号わからん奴なんぞお前しかいねえぞ。」

「わからないものはわからないの！早く教えてよ。
せーんせっ」

ペン回ししながらニコニコしてみせる。

「・・・お前」

キンコンカンコン・・・

「え？何か言った？先生。」

「・・・何でもない。もう時間だ。帰りなさい。」

「先生、送って〜！もう暗いよお〜。」

私はわがママを言う。

「・・・しょうがねえな。俺ももう帰るし、送ってやるよ。」

下駄箱で待ってると言われたのでワクワクしながらまっていた。

ブオオオ・・・

車の音がする。

「おい、早く乗れ。」

先生の車は白くてかっこよかった。

「先生かっこいい車乗ってるんだね！」

「ふん。」

ちよつと微笑んでる。

私達は明日の宿題とか次は何やるとかそんな事を話していた。
家についた。

もう別れる・・・。

「ねえ、彼女いる？」

先生は目を見開いていた。

「……秘密。」

「えー！なんでよー！」

「……いないよっ！」

いない！いないんだって！

私は心の中で喜んだ。

「先生26歳なんですよー！もてないんだね」

「うるさいなー！お前も彼氏はどうなのよ！」

私は今、あなたが好きだからいないんだ！

「いないよお！」

「ぶはっ！」

先生は吹き出していた。

「まだ出来るかも知れないじゃんっ！」

先生が……彼氏になるかも知れないじゃんっ！

「ねえ、先生。私のことどう思うっ？」

何聞いてんだろう、私・・・(汗)

「ちょっと頭が回らない子だと思うね。」

うわぁ・・・嫌なイメージ・・・。

「私、そんなに回ってない風に見える？」

「見えるっていうよりホントに回ってないよね。」

ハッキリいうなあ・・・。

「ほら、いつまでも車の中に居ないで、家に行きなさい。」

先生口調・・・。

「ずっと一緒にいたい。」

やばい・・・。

「・・・は？」

もうだめだ・・・。

「私、先生が！！！！」

「待って！！！！」

車の中が静かになった。

「……明日の宿題もう1つあった。今日配ったプリントなっ！」
誤魔化そうとしてるね……。

「先生……。」

「気持ちはわかったよ……。でも、君は生徒で俺は教師だから……。」

フラレタ……。

「あは……。あははっ！冗談だからっ！ちゃんと宿題するよっ！」

ヤバイ……。泣きそう……。

「じゃあ、バイバイ!!！」

急いで車から降りた。

そのまま階段を上り、自分の部屋で枕に抱きつきながら

泣いた。

2日目『レイプ』

いつの間にかやら寝てしまっていた。

明日の用意もろくにやっていない。

今日は、数学がある。

「母さん、今日ちょっと休みたいなあ。」

「何言ってるの。内申下がるわよ。」

ちょっとくらいいいじゃないの。

気を重くしながら、学校へ向かう。

いつもは友達と行くけれど、今日はちょっと遅くなったから

先に行ってもらった。

信号で待っていると、近くにおじさんが沢山居る事に気付いた。

しかもすべて私を見ている。

(何これ……。誰か……。誰か助けて……。！)

人通りが少ないここは、誰も通らなかつた。

青になって、私は走って逃げようとしたが、

捕まった。

「んううううっ！！」

手で口を塞がれて、抱えられて、そのまま車の中に。

その時、車のナンバーが目に入った。

混乱しながらもちゃんと覚えた。

車の中はクーラーで涼しかった。

車の中にも二人、男性が入っていた。

車が発進する。

「やああっ！やめて！！！」

そのまま私はレイプされた。

道路に放り出されたのは夕方。

私は疲れ果てて、服のボタンもめちゃくちゃだった。

「どこ……どこですか？」

コンビニの店員に場所を聞いたところ、

ずいぶんと遠くだった。

しょうがなくタクシーで帰った。

「どうしたのよ！学校も行かずに！！」

母さんの怒鳴り声。

「母さん・・・私・・・」

泣きながら朝起きた出来事を全て話した。

その後、車のナンバーを覚えていたので、

それを母さんに言って、警察へ連絡した。

学校にもちゃんと事情を話した。

警察に捕まればいいけど・・・。

私はとりあえず、そう願って寝た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6656e/>

未来 > 今 > 過去

2011年1月26日15時41分発行